令和元年６月６日
金　融　庁

主要行等の平成31年３月期決算の概要

１．損益の状況（グループ連結ベース）

○　31年３月期は、国内の低金利環境の継続が資金利益の下押し要因となる中、総じて与信関係費用が増加したことに加え、一部大手銀行グループで特別損益が大幅に悪化したことなどにより、当期純利益は前年同期に比べ▲23.4%の減少。

（単位：億円）

	29年３月期	30年３月期	31年３月期	前期比
連結業務粗利益	105,278	102,995	100,209	▲ 2,787
資金利益	50,158	48,306	47,718	▲ 588
役務取引等利益	34,351	35,039	34,982	▲ 57
その他業務利益	8,762	8,064	6,893	▲ 1,172
うち債券等関係損益*	998	▲ 96	▲ 588	▲ 493
経費	▲ 68,253	▲ 68,901	▲ 68,356	545
連結業務純益	37,913	35,067	32,915	▲ 2,152
与信関係費用**	▲ 3,991	53	▲ 1,702	▲ 1,755
株式等関係損益	4,888	5,629	5,404	▲ 225
うち株式等償却*	▲ 292	▲ 186	▲ 849	▲ 663
親会社株主に帰属する当期純利益	26,140	27,853	21,334	▲ 6,519

*債券等関係損益、株式等償却については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）	29年３月末	30年３月末	31年３月末
貸出金（末残）***	299.9兆円	296.9兆円	305.2兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

２．不良債権の状況（銀行単体ベース）

○　不良債権額は30年３月期に比べ減少、不良債権比率も低下。

（いずれも平成11年３月期の金融再生法に基づく開示以降で最低）

	29年３月期	30年３月期	31年３月期
不良債権額	2.9兆円	2.2兆円	2.0兆円
不良債権比率	0.87%	0.66%	0.58%

３．自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

○　国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1比率、普通株式等Tier1比率は、30年３月期に比べ上昇。

○　国内基準行の自己資本比率は、30年３月期に比べ低下。

（国際統一基準行：４グループ）

	30年３月期	31年３月期
総自己資本比率	17.63%	17.83%
Ｔier1比率	15.12%	15.39%
普通株式等Tier1比率	12.94%	13.31%

（国内基準行：３グループ）

	30年３月期	31年３月期
自己資本比率	11.26%	10.52%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。
（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。
（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。